

【中学校の部・優秀賞】

怪物と記憶

西原町立西原東中学校 一年

田村 柊斗

天空からか 海上からか  
はたまた別の次元からか  
いや その恐怖は同じ地上からやって来た  
そして 同じ人間が生み出した  
人間の心のすきがつくった怪物は  
たちまち世界へ広がった  
たちまち人々をむしばんだ  
後には全てがなくなった

しかし 「戦争という怪物」たちを  
生み出した人々は  
後にその恐ろしさに気付いた  
人々は怪物を自らの心に押さえつけた  
怪物はあらがい続けた  
それでも人々は怪物と戦った  
そうして世界に平和が戻った

その怪物が去った後に  
ただ一つ残ったものがある  
戦争の恐ろしい記憶が残る  
その記憶を持った人々が残る  
「記憶を持った人々」は  
子孫に記憶を残し続ける  
親から子へ 子から子へと  
こんな過ちを二度と起こさぬように  
平和な日々が続くように

そんな意味では人々は成長できたのだろう  
戦争の恐ろしさを知ったのだろう  
だが 百年後千年後はどうなるのか  
子から子へと伝えるうちに

戦争の記憶はうすれていく  
怪物も記憶の中からなくなっていく  
それを気付かせるための試練  
発展しすぎた人間への試練  
だが なくしてはいけない  
戦争の愚かさど恐怖がつづられた記憶を  
だがどう考えようと答えは同じのはず  
戦争をくり返してはいけない  
だから私たちは脈々と伝え続ける  
我らにとっての宝の「記憶」を